

# ♪ 宗次ホールおすすめ公演情報 2017年5月 ♪

チケットのご予約は 宗次ホール チケットセンターへ 052-265-1718(営業時間10:00-18:00)

さわやかで気持ちの良い季節になりました！ゴールデンウィーク中も毎日バラエティに富んだ公演目白押し！いくつかピックアップです！

5月3日(水)は「ウィーン三羽鳥」の一人である、伝統を継承する最後の巨人匠、イェルク・デーモスのピアノ/リサイタル！デーモスは88歳。ベートーヴェン最後のピアノ/ソナタを含む素晴らしい演目で再来演です。貴重な公演になりそうです。

5月4日(木)はモラゲス木管五重奏団。長兄がホルン、クラリネットのパスカルとフルートのミッシェルは双子、というモラゲス兄弟にオーボエとファゴットが加わったアンサンブル。パリ管やオペラ座管弦楽団で首席奏者を務めるメンバーが、弦楽四重奏作品を木管五重奏で演奏します！編曲はオーボエのワルターさん！

5月5日(金)はランチタイムコンサート、大嶋芳さんによる「スペインギター音楽」です。毎春ランチタイムにご出演される大嶋さんですが、実はランチタイムコンサートではもったいない程の素晴らしい演奏家。ランチタイムでは珍しいギターのコンサート。オススメです！

そして5月6日(土)は先日中日新聞にも取り上げて頂いた、故野村正峰さんの箏曲シリーズ公演第1回目「万葉集への憧れ」。名古屋を拠点に活動する箏曲正絃社初代家元で、邦楽作曲家としても知られる正峰さん。演奏は、家元を継いだ娘の祐子さんと、孫で尺八奏者の幹人さん、そして正絃社会奏団さんです。

かなり残席が少ない公演もございますので、どうぞお早目にお電話にてご予約ください！

その他、5月25日(木)には今後の公演からあなたの「気になるコンサート」を見つけて頂ける、「コンサート選定のヒント講座」も！（こちらは参加無料）

【文責：宗次ホール企画担当 廣田 政子(ひろた まさこ)】

「ただ聴いてもらえば必ず伝わる。けっして誇張のないその自然な自信が、実に信頼できる。」

(宮本明/ぶらあぼ 2016年1月号)

**河野 克典** バリトン/関本 昌平 ピアノ

5月21日(日)15:00開演 3,500円(学生2,100円) [指定]

伸び伸びとした自然体/張りのある声/美しく、のびやか…豊かな声でしみじみと歌い上げる/繊細な感覚で丹念に歌い継ぐ(全てCDジャーナルより)…等々、河野さんの演奏の素晴らしさを讃える言葉は本当に豊か。2015年の宗次ホール公演は満員御礼、「冬の旅」で魅了しました。今年はシューマン「詩人の恋」と「リーダークライス」。共演ピアニストの関本さんも2005年ショパン・コンクールで第4位に入賞した俊英ですが、彼との共演についても「関本さんにとっては歌手との初共演だったそうですが、本当に反応が早いし、言葉が要らない。本番でも、なんとも言えない空気感や情景を作ってくれまし



↑2015年2月 宗次ホール公演

た。あまりに素晴らしかったので是非もう一度共演したくて、名古屋公演の後にすぐ東京でのリサイタルを計画しました。」とお話されます。よく、ドイツ歌曲の伴奏をするピアニストは、子音のタイミングなど言葉に対する深い理解が必要とされるため伴奏者にもドイツ語の理解が必須と言われますが、それ

に対して河野さんは必ずしもそうではない、と。「そうした言葉の問題を、僕はお客さんにも自分の発音で示しているわけです。それがもし真横にいるピアニストにさえ伝わらないのなら、客席に伝わるわけがない。逆に、ピアニストにドイツ語が必要なら、お客さんにも全員必要ということになる。そんなことはありません。僕の言葉や声で感じて、想像して楽しんでいただけるはず。だから歌詞の予習なんか要りません。」そう言いきって下さいます。

「昔の自分の録音を聴くと、“いろいろやっているなあ”と感じます。今の僕はたぶんもっと素朴。演奏というのは何かを加えるのではなく、余分なものを削ぎ落していく行為。」とおっしゃる河野さんの言葉は、余計な言葉を極限まで削ぎ落とした、歌曲の詩の世界と通じるものがありそうです。

「その演奏は新しい発見や物語性における驚き、そして有機的なペダルと音響の融合で、聴衆はまるで魔法にかけられたようだった。」(Zsolt Bogner/ピアニスト・評論家)

**イリヤ・イーティン** ピアノ

6月3日(土)18:00開演 4,000円(学生2,400円) [指定]



6月からおすすめの紹介です。ブーニンやベレゾフスキーといった名ピアニストと同世代であり、同じく正統派ロシア・ピアニズムの継承者であるイーティンさん。今回は是非、そのプログラムに注目してみてください！まずシューベルトのソナタ第17番。

40分にも及ぶこの長大なソナタはその長さの余り、いわゆる“名曲”と呼ばれる類ではありません。しかし、かの吉田秀和(音楽評論家)が内田光子のこの曲の録音

に対する評論として書いた文章がこちら:

「二長調のソナタはどうも苦手だった。(中略)私はこのソナタは敬遠して、このCDが出て聴き直したときも、別のソナタから聴き始め、終わるとそのまま二長調は聴かずに止めていた。(中略)だが今思い切って聴いてみて、初めて気が付いた。これは恐ろしいほど、心の中からほとばしり出る“精神的な力”がそのまま音楽になったような曲なのである」

クラシック音楽に造詣が深い作家、村上春樹もこの二長調のソナタをシューベルトの中で一番好きな作品だとエッセイ等の中で度々述べています。こちらは2002年に発表された著書「海辺のカフカ」より:

「シューベルトのソナタを完璧に演奏することは、世界でいちばんむずかしい作業のひとつだからさ。(中略)この作品の一つか二つの楽章だけを独立してとりあげれば、それをある程度完璧に弾けるピアニストはいる。しかし四つの楽章をならべ、統一性ということ念頭に置いて聴いてみると(中略)満足のいく演奏はひとつとしてない。(中略)ひとつだけ言えることがある。それはある種の不完全さを持った作品は、不完全であるが故に人間の心を強く引きつける-少なくともある種の人間の心を強く引きつける、ということだ。」

このソナタをすんなりと演奏するのでは芸術的にならないし、技術的な見せ場もない。そこでピアニストたちはこの長すぎるソナタを退屈にさせまいと、演奏に工夫をこらしてメリハリをつける。完璧な演奏ではないからこそ、人の営みの限界を聴くことができるといったことが説明されています。

そしてもう1曲この日演奏されるラフマニノフのソナタ第1番も、生で聴ける機会が極めて少ない作品。多数の世界的なコンクールで輝かしい受賞歴を誇るカリスマイエティンさんがどのように大作に対峙するのか!

## お得なスイーツタイムコンサート!

13:30開演 2,000円 自由席 ※終演15:00予定

プレゼントチケット(ギフト券セット購入のおまけ等)2枚で入場可能

★チャリティーシート(指定席)AB列中央付近23席限定

★普段は2,000円で聴くことの出来ない海外アーティストまで!

「あの年齢であんな円熟した演奏ができるのは一体なぜ…」(海老彰子/ピアニスト)

**浜松国際ピアノコンクール最年少入賞!**

注目の俊英がスイーツタイムに!

5月12日(金) **ダニエル・シュー** ピアノ

3年に1度開催される浜松国際ピアノコンクール(浜コン)。優勝者がその後ショパン・コンクールで優勝したりと若手ピアニストの登竜門として近年益々の注目を集めています。そして先日直木賞&本屋大賞をダブル受賞した小説「蜜蜂と遠雷」(恩田陸 著)もこの浜コンをモデルとし、ピアノコンクールを描いた物語。コンクールといえど一口に順位がつけられてしまっていますが、そこに辿りつ



くまでの夫々のピアニストのドラマや葛藤がとてもリアルに描かれています。

宗次ホールでは2015年の浜コンより第1位のアレクサンデル・ガジェヴさん、第2位のロマーン・ロパティンスキーさんとスイーツタイムコンサートで紹介して参りました。例えば秒数で競うようなオリンピック競技に比べ、順位付が難しい音楽。その中でも18歳という最年少、しかも人生初の国外演奏(!)という経験の中入賞したシューさん。

「演奏をして、人と音楽を分かちあいたい。演奏をする事で神の愛情を人と分かち合いたい。学校や図書館など、小さな場所で少ない人たちに演奏するのでもかまわないので、ただ演奏がしたい」と話すシューさん。冒頭の引用の通り海老彰子さんを唸らせたベートーヴェン ピアノソナタ第31番もこの日お聴き頂けます!年齢からは想像できないような成熟さと若さ溢れる勢いが絶妙なバランスの彼の演奏を是非生で聴いて頂きたいです!

### 闘うピアニスト!

「次々やりたいことが溢れている状態でなければピアニストは続けられない」(赤松林太郎)

6月4日(日) **赤松 林太郎** ピアノ



僅か2歳で人前で演奏、4歳の時にはTVで特集が組まれた赤松さん。洗濯機もテレビも無いという決して裕福とはいえない生活でしたが、母親は彼にピアノを弾かせたかった。子供の頃から数々のコンクールで優勝を重ね、正に天才少年といった経歴。ですが、本人は日本のシンドララー杉原千畝(すぎはらちうね)氏に憧れ、夢は外交官。

音楽の道への見切りをつけるつもりで挑戦したクララ・シューマン国際ピアノコンクールで3位を受賞してしまい、それがきっかけでピアニストとしての人生を歩むように!多忙を極める生活を送りながら、**同じプログラムは二度と弾かない**という、自分への挑戦を常に忘れない、正に「闘うピアニスト」。移動中も楽譜を見て“スキャン”するように頭に叩き込み、暗譜していくという凄さ。

「ピアニストとしての人生は、苦しいけれど楽しい。次はこれがやりたいという“中毒”になっていなければ、音楽家を続けることはできないと思います。

チケットのご予約・お問い合わせは

宗次ホールチケットセンターへ

☎ 052-265-1718(10時~18時)